

# 2013年度事業報告書

学校法人 松本歯科大学

目 次

事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 頁

法人の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 頁

財務の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 頁

## 事業の概要

### I. 教育目標

建学の理念を具現化し、人間教育全体を教育目標とし、人間としての倫理に基づき、先ず「良き歯科医師となる前に良き人間たれ」という教育方針をモットーとし、学生が将来歯科医師として社会に貢献し、歯科医学の発展に寄与することができるように、次の5項目を達成することを目標として定める。

- (1) 歯科医師としての倫理に基づいて行動できる人間を育成する。
- (2) 生涯にわたって発展させるべき歯科医師として必要な基本的態度、習慣を身につけさせる。
- (3) 歯科医師となるために必要な基礎的知識と基本的技能を修得させる。
- (4) 歯科医学の問題を正しくとらえ、自然科学のみならず、社会科学的、人文科学的方法を総合して解決するための基本的な能力を修得させる。
- (5) 知識・技能・態度を自ら評価し、かつ自発的学習と修練によって、それらを向上し続ける習慣を身につけさせる。

### II 教育

#### 1. 歯学部

##### (1) 教育・カリキュラム

###### ①新たな教育システムの検討

・経費節減及び教育効果の向上を目的とした教育方法の改善を行い、第4学年の進級試験には、共用試験を充てているが、この成績評価を検証し得点が70点以上を進級とするなど教育効果の向上を目的とした教育方法の改善を行った。また、卒業試験のあり方を再度検証し、2012年度は本試を2回実施していたが、2013年度は1回にした。

###### ②カリキュラムの改善

・第4学年の授業科目を検証し、効率的かつ効果的なカリキュラム構築のため保存修復学実習を第3学年履修に変更し、また、高齢者歯科学の授業科目を新たに設けるなど効率的かつ効果的なカリキュラムの構築を行った。

###### ③教育支援の強化

・教員と事務の連携をさらに強化するため事務方が試験監督を担当し、教員の負担を軽減するなど効率的な体制を整備した。

###### ④教員組織の現状（2013年5月1日現在）

	人数(人)
教授	42
准教授	14
講師	29
助教	35
助手	32
合計	152

⑤教員資質の維持・向上方策

- ・FD 研修会を年 6 回開催し、多数の参加者を集め、教員の資質の維持・向上を図った。

⑥歯科医師国家試験合格率向上のための教育

- ・チューター制による少人数教育を実施した。また、オフィスアワーを充実させ、学年主任や副主任による指導を実施した。
- ・歯科医師国家試験に向け、学力強化を図るため外部から専門講師を招き、講義を実施した。
- ・学生個々に各科目の理解度を確認させるために模擬試験を実施し、個別指導に有効活用した。
- ・歯科医師国家試験の結果について  
単年度の本学合格率を他大学のそれと比較すると不本意な結果に終わった。  
なお、2013 年度までの卒業生数は 4,299 人で、この内の約 95%が歯科医師国家試験に合格している。

卒業年度別歯科医師国家試験合格状況

卒業年度(期)	卒業生数	現役合格者数(%)	既卒合格者数	合格者数
2002	90	84 (93.3)	38	122
2003	94	50 (53.2)	9	59
2004	96	56 (58.3)	24	80
2005	75	55 (73.3)	37	92
2006	93	55 (59.1)	15	70
2007	73	48 (65.8)	29	77
2008	115	47 (40.9)	20	67
2009	66	39 (59.1)	34	73
2010	52	38 (73.1)	34	72
2011	78	39 (50.0)	21	60
2012	69	20 (29.0)	37	57
2013	37	13 (35.1)	24	37

(2) 学生生活

①学生支援体制の強化

- ・2月～3月上旬に留年生を対象に三者面談を行い、さらに6月には第1学年を、9月から10月には第1学年から第6学年までを対象に学年主任・科目担当者による三者面談を行った。また、学生の健康、精神面での対応として学生相談室や保健室にて学生相談を行い、学生の指導を行った。

②経済的支援制度

- ・経済的理由により学業に支障を来さないよう歯学部学生に歯学部奨学金貸与・各種奨学金申請事務を行った。

③Campus Inn（学生寮）における学生指導と意見交換

- ・問題発生時ごとに Campus Inn 規程に従い、規程の遵守を徹底させる指導を実施した。

・学生の要望や意見を担当窓口で十分に聴取し、これらの問題点を Campus Inn 管理運営委員会（月 1 回以上開催）で討議した。さらに討議結果を学生にフィードバックした。これらは、大学と学生の意見交換の手段として機能し、学生の快適な生活空間と就学・学習に適した Campus Inn のより良い環境づくりに役立った。

(3) 学生募集

2009 年度に導入した特待生制度及び 2012 年度に実施した学生納付金の大幅な減額が全国規模で周知されてきたことから、前年度並みの志願者となり募集人員 96 名を確保できた。また、一日体験入学を 14 回開催し、多数の参加を得た。海外での留学生募集活動については留学生課が中心となり、台湾の高校訪問や、台湾現地入試を 2 回（8 月・12 月）実施、台湾・韓国の教育フェアやガイダンスを実施したことなどから、前年度を上回る留学生を確保した。

[第 1 学年]

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
募集人員 (人)	80	80	96	96
志願者 (人)	83 (10)	277 (14)	284 (14)	287 (32)
受験者 (人)	81 (10)	267 (13)	272 (13)	270 (28)
入学者 (人)	45 ( 8)	118 ( 6)	96 ( 9)	96 (20)

(内数) は留学生

[第 2 学年編入]

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
募集人員 (人)	若干名	若干名	若干名	若干名
志願者 (人)	11 ( 4)	44 (13)	40 (15)	41 (23)
受験者 (人)	11 ( 4)	43 (13)	40 (15)	39 (22)
入学者 (人)	6 ( 3)	31 (12)	26 (11)	27 (17)

(内数) は留学生

2. 大学院歯学独立研究科

(1) 教育事業

① 大学院教育の推進

- ・必修の導入科目（4 科目）は、博士課程の学生として研究を進める上で必要となる論文作成、統計学などを学び、今後の研究の進捗や学位論文作成等への対応を図ることを目的として実施した。
- ・社会人学生への対応として、授業（導入科目）を DVD に収録し、授業に出席できない学生に配布したほか、メール等による個別指導を実施した。
- ・米国やスイスからの研究者を含む様々な分野のエキスパートを招き、大学院セミナーを年間 15 回開催した。

② 課程教育充実のための研究発表会開催

- ・研究テーマ発表会 2 回開催（対象：第 2 学年）
- ・中間発表会 4 回開催（対象：第 2・3 学年）
- ・大学院研究科発表会 5 回開催（対象：第 3・4 学年）

③研究経過報告書

- ・研究の進捗状況を把握し、研究活動をサポートした。

④学位授与 (2014年3月31日現在)

適 用	人数(人)
標準修業年限(4年)での博士課程修了者	14
課程博士(単位取得退学)	1
3年次での早期博士課程修了者	0
論文提出による学位取得者(論文博士)	2

(2) 入学者選抜試験

2014年度入学者選抜試験の結果

入試区分	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	入学者 (人)
秋期入学(2013.10入学)	—	2	2	2
I期試験(2014.4入学)	—	0	0	0
II期試験(2014.4入学)	—	5	5	5
計	18	7	7	7

(3) 学生支援事業

- ①ティーチング・アシスタントとして大学院生を採用し、学部教育の充実と大学院生の指導能力の向上を図った。
- ②日本学生支援機構第一種奨学生として、第1学年1人が採用された。
- ③全学生を対象に財団法人日本国際支援協会が取り扱う学生教育研究災害傷害保険に加入した。

(4) 教員組織

教員組織の現況 (2013年5月1日現在)

区 分	人数(人)	
研究指導教員	教授	27
	准教授	10
	講 師	7
研究指導補助教員	准教授	2
	講 師	14
	助 教	1
計	61	

3. 総合歯科医学研究所

(1) 各部門の事業

①硬組織疾患制御再建学部門

- ・科学研究費補助金「基盤研究S」が歯科医学領域で唯一採択され、3年間で1億円を突破する大型研究費を獲得した。
- ・国内外の共同研究を推進し、Nature誌、PLoS ONE誌、米国学士院紀要(PNAS)、米国生化学分子生物学会雑誌(JBC)、内分泌学会雑誌(Endocrinology)等に学術論文を掲載することができ、新聞等でも報道された。
- ・第12回松本ボーンフォーラムを2013年5月17・18日に開催した。
- ・2010年度から本学病院にて実施している「がんの樹状細胞ワクチン療法」のワ

クチン製造業務を担当し、150 例を超えた。がんの免疫療法の拠点としての本学病院の役割が期待される。がんの免疫療法の臨床研究の発展にも大きく寄与している。

②顎口腔機能制御学部門

- ・塩尻ロマン大学（塩尻市）において、口腔機能の重要性について講演を行った。
- ・食生活を管理するための方策として、「カムカムメニュー」を提案し、月に1度、本学学生食堂で提供した。
- ・「カムカムメニュー」の基本コンセプトを塩尻地域に発信するために、塩尻市健康づくり課と協力して各種講演を行った。

③健康増進口腔科学部門

- ・山西医科大学（中国山西省）との学術交流・友好協力協定書に基づく共同研究としてシンバスタチンによるインプラント周囲骨形成の研究を実施した。
- ・第 62 回日本口腔衛生学会総会を本学が主管し、松本市内で開催した。特別講演、シンポジウム、研究発表が活発になされた。

(2) 研究・開発

①国内共同研究

- ・信州大学、大阪大学、新潟大学をはじめとした教育研究機関及び企業との間で 10 件の共同研究を行った。

②海外共同研究

- ・アルバート・アインシュタイン医学校をはじめとした教育研究機関との間で 3 件の共同研究を行った。

③共同開発

- ・企業との間で口腔インプラントの開発をはじめ 4 件の共同開発を行った。

4. 松本歯科大学衛生学院

(1) 教育事業

2004 年の歯科衛生士養成所指導要領の改正によって修業課程がこれまでの 2 年制から 3 年制へ変更になり、『歯科衛生士国家試験』の受験資格のみでなく、選択分野の科目履修によって、『医療事務(歯科)』の受験資格や『介護職員初任者研修』の資格を得ることも可能となった。2013 年度の医療事務(歯科)資格の授業選択者は 15 人で、介護職員初任者研修資格の授業選択者は 19 人であった。

(2) 教育体制の強化

- ① 各学年担任の専任教員が、それぞれの学生と密接に接し、状況を把握して適切な指導ができるように努めてきた。
- ② 講師陣を本学歯学部若手教員を主体とすることにより、大学各講座との連携のもとに常に最新の歯科医学を教授できるように努めてきた。
- ③ 歯科衛生士国家試験については、特訓を行って、100%合格を維持できた。
- ④ AO入試（I 期）や推薦入試で早期に入学が内定した学生については、高校卒業までの期間に学習意欲の維持・向上を目的として入学前教育を実施し、課題を与えてスクーリングを行うことで教育効果が得られた。

(3) 学生募集事業

- ① 指定校制度については、入学実績によって 1 校 1 人の人数枠を弾力的に運用するなど、高校の進路指導部との連携を強化して、志願者の増加を図ってきた。

2013年度に開催した2回の1日体験入学には、参加者は合計81組で第3学年生はその内の62人であった。2012年度の参加者は74組、第3学年生は58人であったことに比べると参加者は増加となった。長野県内の東信及び北信からの参加者も少数であるが増えてきた。

②2014年度入学者選抜試験

2013年度の受験者は49人、入学者は37人であったが、2014年度の入学者選抜試験の志願者は41人、入学者は33人で昨年度より1日体験入学参加者が増加したにもかかわらず受験者と入学者が減少してしまった。

③長野県歯科衛生士養成所4校連絡協議会の活動を通じて、志願者の増加を各方面に働きかけてきた。長野県歯科医師会や長野県当局にも補助金の支給など養成事業への協力を要請してきたがまだ、協力を得られていない。

### Ⅲ. 病院・診療

#### 1. 病院

##### (1) 患者・家族の満足度

###### ①患者からの要望への対応

・毎月行う診療科長会、病院連絡会、リスクマネジメント部会、保険委員会を通じて投書及び医療相談などを中心とした患者からの声を周知するとともに、他部署で起こった悪い点は繰り返さない、良い点は見習うなど病院全体のこととして取り組んだ。

###### ②インプラント治療体制の充実

・松本歯科大学及び信州大学の歯科インプラント関係者が中心となり長野県歯科インプラントネットワークが発足した。インプラント治療のトラブル発生を抑える対策はもとより病診連携を図った。

###### ③施設基準、算定基準、加算基準を日常業務で適切に実施できる業務体制及びその適切な実施状況を検証する管理体制

・保険委員会を充実することで医事の点検業務を強化し、より適切な実施状況を検証する管理体制を整え継続している。

##### (2) 質の保証

①収益改善のためのデータベースづくりを実施し、今後のより効率的な運営を目指すための基盤整備を行った。

###### ②医療安全管理委員会の機能の明確化と実践、年次実績の検証

・院内感染防止対策委員会にインфекションコントロールチームを発足し病棟及び各診療室のラウンドを実施、感染防止地域連携合同カンファレンスに参加した。

###### ③診療から診療までの間隔の短縮化

・診療間隔の短縮を目的として、年間を通して火曜日の延長診療を行った。

##### (3) 人材育成

①患者中心の医療を実践できる医療人

②コミュニケーション能力の優れた医療人

③倫理的問題を真摯に受けとめ、適切に対処できる人材

④幅広く質の高い臨床能力を身につけた医療人

- ・研修管理委員会のメンバー及びヘッドインストラクター会議のメンバーを中心に登院の学生と研修歯科医に対し、①～④を目標とした人材を育成するための教育を行った。

(4) 健全経営

健全経営を目指す取り組みとして、事業計画に基づく予算の執行状況をより細かく把握するため、管理会計の仕組みに基づいて予算の執行管理及び月次決算を実施した。

2. 診療

患者数と診療報酬額

病院全体の診療実績（1,221,728千円から1,179,280千円、前年比3.5%減）は前年度を下回ったが、患者数（156,298人から158,141人、前年比1.2%増）は前年度を上回る結果となった。

	患者数（人）			診療報酬額（千円）		
	2012年度	2013年度	前年度比（%）	2012年度	2013年度	前年度比（%）
歯科	130,820	133,309	+1.9	694,730	684,800	-1.4
内科	12,062	10,805	-10.4	181,271	152,444	-15.9
眼科	9,972	10,250	+2.8	210,895	209,594	-0.6
樹状 <sup>注1</sup>	38	36	-5.3	75,777	65,592	-13.4
健診 <sup>注2</sup>	3,406	3,741	+9.8	54,644	61,078	+11.8
健康 <sup>注3</sup>	※ 6,049	※ 7,877	+30.2	4,411	5,772	+30.9
合計	156,298	158,141	+1.2	1,221,728	1,179,280	-3.5

注1 樹状細胞ワクチン療法

注2 健診センター

注3 健康づくりセンター

※数字は合計に含まない。

IV. 管理・運営

1. 施設・設備の整備

省エネルギー対策の推進

エネルギーの使用の合理化に関する法律の規定に基づき、定期報告書及び中長期計画書を“文部科学省”及び“関東経済産業局”に提出した。全学的な協力と理解による『施設利用の改善』等で省エネルギーを推進することにより光熱水費を抑えた。さらに2013年度は、構内エレベーター及び受変電設備の更新により全エネルギー（Campus Inn・桔梗ヶ原ハイツを除く）原油換算値では、前年度比92.9%の大きな成果を上げることができた。

2. 管理経費の削減

経常的な支出全般についての見直しを引き続き実施し、業務委託費を含め各部署における経費の見直しを再度行い、次年度へ向けた予算編成を行った。

### 3. 図書館

#### (1) 国立情報学研究所の学術機関リポジトリ

「松本歯科大学リポジトリ」の充実を図るため、データを整備し、学位論文の収録・公開の準備を行った。

#### (2) 利用者サービスの拡充

①利用者教育として、臨床研修医に対して利用指導・文献検索ガイダンス、新入生に対して図書館利用説明・図書館ツアーを実施した。

②迅速な文献入手のために電子ジャーナルデータベース等のトライアルを行い、利便性について周知を図った。

③学生の図書延滞対策として、掲示及びメールによる督促及び学年主任による指導を実施し、長期延滞者が減少した。

#### (3) 図書館資料の整備

二次資料と利用価値の低下した専門図書を中心に、除籍・廃棄を行い、書架スペースを確保した。

### 4. 知財管理・産学連携

#### (1) 知的財産の管理

調査、出願、審査請求等の知的財産管理のほか、実施料収入と特許維持費のバランスが悪化した案件に関して保有特許の整理を実施した。

#### (2) 産学官連携推進室による知的財産管理体制の構築

##### ①産学官連携推進室による産学官連携・知的財産関係の活動

・「産学連携のために地元企業の強みを知る」というテーマでFD研修会を開催した。

・塩尻市内企業による本学病院見学会を実施した。

##### ②一般財団法人塩尻市振興公社（SIP）との連携として、松本歯科大学・塩尻市産学官連携相談室（毎月）を設置した。

### 5. 研究費の管理

#### ①公的研究費に関する学内説明会の実施（2回）

#### ②公的研究費実績

	件数	金額(間接経費含む) (円)
科研費（日本学術振興会）※	23	171,860,000
受託研究（科学技術振興機構（JST））	2	2,619,100

※ 科研費は2013年度に交付決定を受けた研究課題（今後2～5年にわたって交付される基金分を含む）

### 6. 自己点検・評価

2015年度自己点検評価報告書の作成及び認証評価受審に向けて、自己点検・評価活動として、学内規程の点検、データ収集、2011年度に発行した「自己点検・評価報告書2011」に記載した改善・向上方策の実施に取り組んだ。

### 7. 社会貢献

知の拠点整備事業ワーキンググループの企画による市民公開講座（5回シリーズ）を開催し、毎回多数の受講者を集めた。

## 法人の概要

### I. 設置する学校・学部・学科とその定員等

#### 1. 松本歯科大学

入学定員・収容定員・在籍学生数 (2013年5月1日現在)

学部・学科	開設年度	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
歯学部歯学科	1972年	120	720	113	140	62	56	63	89	523
大学院 歯学独立研究科	2003年	18	72	10	28	13	14	—	—	65

卒業生・修了者・進学者・就職者数 (2014年3月31日現在)

学部	卒業生	就職者 (研修歯科医)	左記以外
歯学部歯学科	37	13	24

研究科	修了者	就職者	内訳	
			本学病院	他の病院等
大学院 歯学独立研究科	14	14	5	9

(単位:人)

#### 2. 松本歯科大学衛生学院

(2013年5月1日現在)

学部・学科	開設年度	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	合計
歯科衛生士学科	1976年	38	114	37	22	15	74

(単位:人)

### II. 役員数

(2013年5月1日現在)

	定数	実数
理事	9~11	9
監事	2~3	2
評議員	23~30	29

(単位:人)

### III. 職員数

(2013年5月1日現在)

	大学	衛生学院	合計
教育職員	152	4	156
医療職員	142	0	142
事務職員	78	兼務(3)	78
技術職員	1	0	1

(単位:人)

## 財務の概要

### I. 資金収支計算書

(単位：百万円)

#### 1. 収入の部

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	2,174
補助金収入	76
資産運用収入	303
事業収入	1,461
雑収入その他	190
借入金収入	0
前受金収入	288
その他収入	4,386
資金収入調整勘定	△830
前年度繰越支払資金	2,998
収入の部合計	11,046

#### 2. 支出の部

科 目	金 額
人件費支出	2,353
教育研究経費支出	1,912
管理経費支出	390
借入金等利息支出	73
借入金等返済支出	2,457
施設設備関係支出	143
資産運用支出	0
その他	1,603
資金支出調整勘定	△663
次年度繰越支払資金	2,778
支出の部合計	11,046

### II. 消費収支計算書

(単位：百万円)

#### 1. 収入の部

科 目	金 額
学生生徒等納付金	2,174
手数料	15
寄付金	37
補助金	76
資産運用収入	346
事業収入	1,461
雑収入	840
帰属収入合計	4,949
基本金組入額合計	924
消費収入の部合計	4,025

#### 2. 支出の部

科 目	金 額
人件費	2,144
教育研究経費	2,837
管理経費	682
借入金等利息	73
その他	403
消費支出の部合計	6,139
当年度消費支出超過額	2,114
前年度繰越消費支出超過額	14,734
翌年度繰越消費支出超過額	16,848

### Ⅲ. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	金 額
有形固定資産	18,418
その他の固定資産	6,934
流動資産	3,096
資産の部合計	28,448
固定負債	2,911
流動負債	2,358
負債の部合計	5,269
基本金	40,027
消費収支支出超過額	16,848
負債・基本金及び消費支出合計	28,448